

日々の積み重ねが、子どもたちの未来を拓く大きな力になる！

学校全体で語彙を豊かにする

2026

「豊かな語彙」は、あらゆる学習の基盤となります！

？ どうして「豊かな語彙」は、あらゆる学習の基盤となるのですか？



本紙についての
Q&A



言葉で自分の考えを形成したり、新しい考えを生み出したりします。



言葉でものごとを理解し、言葉で自分の思いや考えを表現します。



様々な考えをもつ人と、言葉でコミュニケーションを深めます。

思考、理解、表現、コミュニケーションは、主として言葉を通して行われます。そのため、語彙を豊かにすることは、あらゆる学習の充実につながります。

子どもの語彙が豊かであるほど、
学びや見える世界が広がり、未来を拓く大きな力になります。

しかし、子どもたちの語彙はすぐに豊かになるものではありません。

**すべての授業や教育活動のあらゆる機会を捉えて、
学校全体での継続的な取組が必要です！**

日々の積み重ねが大きな力に！～語彙を豊かにする継続的な取組例～

学校全体の活動で

- ☐ 学校行事や地域の人と関わる機会も、表現力育成の貴重な場と捉える。 1
- ☐ 学校外の方と交流する際には、目的や思いが表現に反映されているか確かめる。例：招待状、御礼状の作成 2
- ☐ 校内放送で、定期的に言葉に関わる内容の放送を企画させる。例：時事用語の紹介、言葉クイズ、新聞のコラムの紹介 3
- ☐ 校内掲示で、言葉に関心をもたせるコーナーをつくる。例：語彙チャレンジコーナー、流行のカナ語コーナー、時事用語の説明コーナー 4
- ☐ 集会等で、言葉やその由来等を紹介する。例：年中行事、名言、格言 5

学級や授業で

- ☐ 子どもの素敵な表現のよさを価値付け、広げる。 1
- ☐ 言葉のアップグレードを意識させる。例：うれしい→胸が躍る 2
- ☐ 「なぜなら」などを使い、理由をセットで話すことを習慣にさせる。 3
- ☐ 似た言葉との違いを明らかにさせる。例：「とぶ」と「はねる」 4
- ☐ 言葉を抽象→具体、具体→抽象にする機会をつくる。例：戦国大名→織田信長、算数→教科 5
- ☐ 様々な言葉を声に出して読む機会をつくる。 6
- ☐ 伝えたいことをイラストや図表、数式などにして表現する機会をつくる。 7
- ☐ 用語の定義を教科書や資料等で確認させる。 8
- ☐ 語彙ノートを用いて、語彙を集める活動を行う。 9

特に小学校低学年で

- ☐ 絵本の読み聞かせを日常的な活動として位置付ける。 1
- ☐ 「体験や実物」と言葉とがセットになることを大切にする。 2
- ☐ 言葉を動作化したりジェスチャーで表現したりする機会をつくる。 3
- ☐ 驚きや感動の後に、その場面や気持ちを表現する機会をつくる。 4
- ☐ 「言葉遊び」や「わらべ歌」で、遊びやリズム、身体表現とともに言葉に触れる機会をつくる。 5
- ☐ 歌の歌詞にある言葉の意味を確かめさせ、想像しながら歌わせる。 6
- ☐ オノマトペ集めやオノマトペ比べをする。例：パラパラ、ザーザー、ザンザカ（雨の音） 7

※ できそうなものから、□に✓を入れて取り組んでみませんか？

子どもたちの言葉、こんな可能性はありませんか？



- 日常的に使う言葉が、生活経験の不足等により、実感と結び付いていない可能性はありませんか？（例：火、煙、沸騰）
- 授業で使われている言葉が、知っていることを前提として使われ、実は理解されていない可能性はありませんか？（例：比較する、整理する、振り返る）
- 教科特有の言葉が、日常的な文脈の意味のまま使われている可能性はありませんか？（例：仕事、力、変化）